

製品名: CENPF ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08640**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:50-1:300, ICC/IF 1:50-1:200
分子量	353kDa

抗原情報

遺伝子名	CENPF
別名	CENPF
遺伝子 ID	1063.0
SwissProt ID	P49454
免疫原	ヒトタンパク質由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 2190-2270

背景

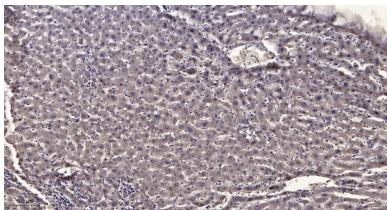
この遺伝子は、セントロメア-キネトコア複合体に結合するタンパク質をコードしています。このタンパク質は、間期 G2 期における核マトリックスの構成要素です。G2 後期にはキネトコアと結合し、後期前期までこの結合を維持します。後期後期には紡錘体中層

に、終期には細胞内ブリッジに局在し、その後分解されると考えられています。このタンパク質の局在は、有糸分裂中の染色体分離に関与している可能性を示唆しています。ホモ二量体またはヘテロ二量体を形成すると考えられています。癌患者または移植片対宿主病患者において、このタンパク質に対する自己抗体が発見されています。 [RefSeq 提供、2008年7月],発生段階:細胞周期中に徐々に蓄積し、G2期およびM期にピークに達し、有糸分裂が完了するとすぐに分解されます。機能:有糸分裂における動原体機能と染色体分配に必要です。ダイニン、LIS1、NDE1、およびNDEL1の動原体局在に必要です。STX4およびSNAP25との関連により、リサイクリング小胞と微小管ネットワーク間のリンクとして機能することで、細胞膜のリサイクリングを制御します。細胞分裂および増殖中のRBタンパク質の活性を制御すれば、発生中のポケットタンパク質を介した細胞プロセスの潜在的な阻害剤として機能します。正常な胎児心筋細胞の細胞周期、および形質転換され異常に分裂している新生児心筋細胞の継続的な有糸分裂の促進において、制御的または許容的な役割を果たす可能性があります。RBとの相互作用により、胚性幹細胞は心臓細胞系譜に向かう。C末端を介してDNA合成の調節、ひいては細胞周期の進行に関与する。骨格筋形成の調節および胚発生における細胞分化における潜在的な役割を有する。樹状細胞によるクラミジアに対するT細胞免疫の調節に関与する。PTM:有糸分裂中に過剰リン酸化される。DNAが損傷すると、おそらくATMまたはATRによってリン酸化される。類似性:セントロメアタンパク質ファミリーに属する。細胞内局在:有糸分裂中に動原体/セントロメア(外板の冠状表面)および紡錘体に再局在する。間期には核内で観察されるが、核小体では観察されない。中期には、動原体や有糸分裂装置、さらには細胞質を含む領域に局在する。終期までに、中体両側の細胞内ブリッジ内に濃縮される。サブユニット:STX4(C末端を介して)と相互作用する(類似性による)。RBL1、RBL2、SNAP25(N末端を介して)と相互作用する(類似性による)。自己会合する。CENP-EおよびBUBR1(C末端を介して)と相互作用する。NDE1、NDEL1、RB1(C末端を介して)と相互作用する。、

研究分野

-

画像データ



パラフィン包埋ヒト肝癌の免疫組織化学分析。1、抗体を1:200に希釈した(4°Cで一晩)。2、抗原賦活化にはTris-EDTA、pH9.0を使用した。3、二次抗体を1:200に希釈した(室温、45分)。